

雑誌『丁酉倫理会倫理講演集』総目次（Ⅲ）

大木 康充

第二百八十一輯（1926年3月1日）

論説

- 優越欲……………文学博士 春山作樹
歴史の哲学観——プリングル・パイテソン……………岡田哲蔵
同情心の考察……………高島平三郎
現時の教育問題……………文学士 大島正徳
時代相変転の法則的考察……………文学士 下沢瑞世
宗教上に於ける信仰心と崇拜心の位置……………楠本義郎

泰西思潮

欧洲生活の虚幻（アンドレ モフレ André Moufflet）

雑録

左傾病者と右傾病者（山形東根）／誤解されたる社会科学（清陰生）／読者の声 禁
酒法の提唱（西城良吾）／現代人を戒しむ（中島信雄）

第二百八十二輯（1926年4月1日）

論説

- 廬山（支那の文化史上に於ける位置）……………常盤大定
東西の国際関係と新瑜祇の運動……………隈本有尚
牛津の学府……………岡田哲蔵
道教の倫理説……………小柳司気太
国策と教育……………文学士 小豆沢英男

泰西思潮

戦後の独逸思想界に於ける倫理問題の発達（ブルノ、パウハ）

雑録

知識階級問題（山形東根）／半真半戯の社会（処世哲学の一片）（清陰生）／ゴッ
ツプ（春の人）

第二百八十三輯（1926 年 5 月 1 日）

論説

国民生活の統一と不統一……………文学博士 下田次郎
政治的道德の振興に就いて……………荻原祐
国際連盟の危機とその救済策……………大熊真
少年保護事業につきて……………文学士 太田秀穂
人口調節と移民の価値……………布川静淵

泰西思潮

戦前の急進者等は今何処にありや（上）／産児制限のための誤れる宣伝（レイス・
ダブリン）／米国学生の軍事教育

雑録

再び宗教の本質に就て（楠本義郎）／醜悪なる政治とその改革（T. T. 生）／政治の
新傾向（山形東根）／文明の進歩と犯罪（瀧川三軒）／機密費問題（不染子）／本
会記事

第二百八十四輯（1926 年 6 月 1 日）

論説

新形而上学論の一標本——Geyser, Einige Hauptprobleme der Metaphysik
……………文学博士 桑木巖翼
社会的自由に関する一考察……………文学士 菰田万一郎
儒教の政治観念に就て……………文学士 大川周明
政教一致論……………伊藤長七
人格論——家庭学校及び社会に於て人格修養の道如何
……………エリツクス、アドラー（青芳勝文訳）

泰西思潮

戦前の急進者等は今何処にありや（下）

雑録

米食生活の影響と其推移（山形東根）/英国の総同盟罷業（瀧川三軒）/本会記事

第二百八十五輯（1926年7月1日）

論説

新哲学の道德観……………文学博士 吉田静致
サンタヤナの「哲学の香」……………岡田哲蔵
教育勅語に就いて……………文学博士 吉田熊次
自己懺悔……………文学士 太田秀穂
価値の認識に就いて……………文学士 長屋喜一
人格論（完）——家庭学校及び社会に於ける人格修養の道如何
……………フエリクス・アドラー

泰西思潮

ファシズムの理論と實際（伊太利に於ける統括党の改革）/英国小説壇の新傾向（アンドレ・マウロア）

雑録

蒼蠅主義と鶏口主義（SH）/学者と著者と記者（書く人の種類さまざま）（山形東根）/教員生活の半面（緑陰生）/教授法の芸術化（不染子）/緑陰閑話（夏の人）/本会記事

第二百八十六輯（1926年8月1日）

論説

英国の労働争議に就て……………法学博士 米田実
スタイナーの人格観……………隈本有尚
中等学校以上に於ける徳育……………藤井種太郎

泰西思潮

日米戦争可能なりや

雑録

年齢関係より観たる現代の日本（布川静淵）/神社は宗教なりや否や（山形東根）
/本会記事

第二百八十七輯（1926年9月1日）

論説

我が国思想界の現状を顧みて……………経済学博士 永井亨
対治邪執……………文学博士 紀平正美

泰西思潮

独逸の青年運動（エミル・シエヴァリエ）

雑録

後藤子爵の丁酉倫理会員招待会（子爵の新教化運動に対する説明：三輪田元道・
宮田脩・中島徳蔵・高島平三郎・伊藤長七・常盤大定・井上哲次郎）/政治の倫
理化に就て（井上哲次郎）/後藤子爵に招かれて（小柳司気太）/所謂政治の倫理
化運動（隈本有尚）/政治家と理想（後藤子爵の意見に因みて）（友枝高彦）/政
治の倫理化運動に就いて（小豆沢英男）/緑陰閑話（夏の人）

第二百八十八輯（1926年10月1日）

論説

最近欧米に於ける倫理学界……………文学士 島本愛之助
トマス・ハアディの詩境……………岡田哲蔵
農村問題と青年訓練……………文学博士 深作安文
マルサス時代の英国と現代日本の人口問題……………布川静淵

泰西思潮

岐路に立つ欧洲/英国の田園邸宅の将来

雑録

昨今の世相如何か観る（東根生）/読者の声 徳育無効の原因に就て（楠本義郎）

第二百八十九輯 (1926 年 11 月 1 日)

論説

- 社会問題の真髄……………隈本有尚
智識階級の無気力……………文学士 太田秀穂
最近欧米に於ける倫理学界(完結)……………文学士 島本愛之助
人間の改造と静坐法の三綱領……………マスター・オブ・アアツ 岸本能武太
禅の公案……………木村正三郎
中学論は別の方向へ……………文学士 大島正徳

泰西思潮

- 欧洲の内面考察(ピエル・デカアブ及び、ジャン・リシャル・プロツシエ)/産
児調節と出生率減退(シユエネー)

雑録

- 日本特有の問題(山形東根)/学生の社会科学研究団検挙(不染子)/本会記事

第二百九十輯 (1926 年 12 月 1 日)

論説

- 海外発展の倫理……………文学博士 吉田熊次
倫理化の意義……………文学博士 三宅雄二郎
政党の倫理……………友枝高彦
河口師の在家仏教を評し之に因みて教界の覚醒上進一步を望む……………隈本有尚
愛児の死に直面して……………文学士 栗原英之助

泰西思潮

- 大陸世界連盟運動/千社札の起源に就て(東根)

雑録

- 丙午の迷信に就て(干支撤廃の議)(瀧川三軒)/恩給問答(秋の人)/海外便り
(Ⅰ桑木君来信、Ⅱ高島君来信)/読者の声 学者教育家に警告す(中島信雄)
/本会記事

第二百九十一輯（1927 年 1 月）

論説

ソロヴィヨフの生涯……………文学博士 吉田静致
形而上の知識——それが現代の実生活に於ける意義……………隈本有尚
倫理的価値認識の本質……………文学士 長屋喜一
米国の禁酒問題に就て……………清沢浏
現下の我が社会相……………文学博士 深作安文

泰西思潮

耶蘇神話説/過激主義の危機（テオドル・フォン・レンテルン）/倫理学説の現状
（デヴラー）

雑録

社会科学研究勃興の原因（吉田熊次）/忠君愛国者の分類（太田秀穂）/草茅危言
（小豆沢英男）/過去一年の回顧（瀧川三軒）/本会記事

第二百九十二輯（1927 年 2 月 1 日）

論説

政治道徳に就て……………大島正徳
社会事業の理論と実際……………賀川豊彦
松島事件に見て制度の改革を促すこと二三……………法貴慶次郎
倫理上の人格……………長屋喜一

泰西思潮

輓近政治思想の推移（上）（チャーレス・エドワード・マーリアム）

雑録

聖勅を拝して（布川静淵）/草茅危言（第二）（小豆沢英男）/総領の甚六と末子
の甚六（山形東根）/読者の声 教育者の心情（IT 生）

第二百九十三輯（1927 年 3 月 1 日）

論説

- ドリンクウォーターの劇とその道義性……………岡田哲蔵
倫理上の人格（完）……………文学士 長屋喜一
社会事業の理論と実際（完結）……………賀川豊彦
無機界に於ける倫理率の基礎に就て……………工学博士 田中龍夫

泰西思潮

最近政治思想の推移（下）（マールアム）

雑録

大正より昭和へ（東根）/スピノーザ逝きて二百五十年（静観子）/英国の今昔（イ
ング博士の「英国」を読む）（静淵生）/マルキシズム流行の背景（不染子）/詔
書勅書勅語の区別に就て（古市静山）/太田秀穂学士の所論に賛す（瀬尾武次郎）
/政治と道徳と新時代（坂井衡平）/本会記事

第二百九十四輯（1927年4月1日）

論説

- 肉体上並精神上の衛生……………隈本有尚
新時代思潮の傾向……………布川静淵
井上博士と三種の神器問題……………比佐裕次郎
仏教の戒律……………木村正三郎

泰西思潮

地理上より観たる世界権力の中心（上）（エルワルス・ハンチントン）/仏蘭西文
学と農民（ベルナール・ハイ）

雑録

現代の読者心理（瀧川三軒）/就職難と失職苦（山形東根）/草茅危言（三）（小
豆沢英男）/地震予報のこと（なにがし）

第二百九十五輯（1927年5月1日）

論説

失業の救済について……………	法学士 守屋栄夫
現代の広告哲学……………	山形東根
吾国の文化上宗教の今後……………	隈本有尚
欧米をめぐりて（上）……………	高島平三郎
職業の倫理的考案……………	高松実亮

泰西思潮

地理上より観たる世界権力の中心（中）（エルズワスル・ハンチントン）／日本の土地と労働（テオドル・ステルンベルヒ）
--

雑録

任免去就の倫理（不染子）／男子の貞操問題（希声）／本会記事

第二百九十六輯（1927年6月1日）

論説

科学の革新と哲学の問題……………	工学博士 田中龍夫
社会の発展と自我の実現……………	文学博士 下田次郎
「ウィリアム・クリソルドの世界」を見る……………	岡田哲蔵
欧米をめぐりて（下）……………	高島平三郎
刻下の教育問題……………	文学士 大島正徳

泰西思潮

地理上より観たる世界権力の中心（下）（エルズワスル・ハンチントン）／カール・マルクス（一）（ハロールド・ゼイ・ラスキ）

雑録

モラトリアムの跡を顧みて（瀧川三軒）／高校試験問題漏洩事件（希声）／学問らしい学問（得一生）／本会記事

第二百九十七輯（1927年7月1日）

論説

国内の異邦人……………	文学博士 桑木厳翼
-------------	-----------

生活原理としての創造……………	稲毛金七
現代の世相と白色倫理運動……………	宮田脩
「ウィリアム・クリソルドの世界」を読む（承前）……………	岡田哲蔵
泰西思潮	
カール・マルクス（二）（ハロルド・ゼー・ラスキ）……………	
雑録	
大都会と犯罪（不正牛乳事件に因みて）（山形東根）／出版界小観（瀧川三軒）／	
緑陰閑話（緑陰生）／祖国の健康は如何（恐慌と之が救済の道）（田中龍夫）／ウ	
エルズの近業……………	

第二百九十八輯（1927年8月1日）

論説

教育の倫理……………	文学士 入沢宗寿
文芸と道徳……………	文学士 田部重治
形而上学から観たる「宇宙の謎」……………	隈本有尚
「もの」と「こと」……………	千葉命吉
生活原理としての創造（完結）……………	稲毛金七

泰西思潮

カール・マルクス（三）（ハロルド・ゼー・ラスキ）／貧困の哲学（カール・セベ ステン）……………	
--	--

雑録

近代社会と老年級（瀧川三軒）／夏の日（不染子）／本会記事……………	
-----------------------------------	--

第二百九十九輯（1927年9月1日）

論説

自治の精神……………	文学士 大島正徳
東邦文化と亜歴山大王……………	隈本有尚
何ぞ無寒暑の所に向つて去らざる……………	文学士 栗原英之助

女子教育管見……………文学士 小豆沢英男

泰西思潮

カール・マルクス（四）（ハロルド・ゼー・ラスキ）/独逸文壇の新傾向（デー・デー）/仏蘭西の出版界（ルネ・ラルウ）

雑録

銷夏漫筆（太田秀穂）/人と我（瀬尾武次郎）/宗教側面観（山形東根）

第三百輯（1927 年 10 月 1 日）

論説

朝鮮新文化建設の第一歩への原理としての人本主義……………文学士 島本愛之助

倫理思想の二つの流……………文学士 若木貞一

道德上の主観的形式的判断と客観的実質的判断……………文学士 藤井章

現代文明の傾向と批判……………布川静淵

泰西思潮

カール・マルクス（完）（ハロルド・ゼー・ラスキ）

雑録

草茅危言（第四）（小豆沢英男）/流転の世相（希声）/文部省原案について（大島）/上層階級の心理（瀧川三軒）

第三百一輯（1927 年 11 月 1 日）

論説

最古のスピノーザ伝……………岡田哲蔵

科学と常識の衝突……………隈本有尚

朝鮮新文化建設の第一歩への原理としての人本主義（承前）

……………文学士 島本愛之助

再び政治道德について（一）……………文学士 大島正徳

泰西思潮

移住と米国婦人氣質（エルズワルス・ハンチントン）/都市の社会哲学（ニコラ

ス・ジェー・スパイクマン) / 宗教としての共産主義 (希声)

雑録

所謂親子心中に就て (山形東根) / 無題録 (希声子) / 作業能率測定と正当賃金 (高橋孝太郎) / 社会思想といふこと (不染生) / 本会記事

第三百二輯 (1927 年 12 月 1 日)

論説

所謂試験地獄……………文学博士 春山作樹
試験制度改正の文部省案及び之に対する各種学校長会議の態度につきて
……………文学士 若木貞一
生死の境に立ちて……………文学博士 野田義夫
再び政治道德について (二) ……………文学士 大島正徳

泰西思潮

何故私は基督教徒でないか (上) (パートランド・ラツセル) / ロシヤの新式教育
(G・M 生) / ノート教授改正要求

雑録

生活の改善と教育の実際化 (瀧川三軒) / 草茅危言 (第五) (小豆沢英男) / 本会
記事

第三百三輯 (1928 年 1 月 1 日)

論説

価値とは何ぞや……………文学博士 吉田熊次
全体性と人生……………文学博士 桑田芳蔵
映画と教育……………文学士 小尾範治
明暗両様の生活……………文学博士 深作安文
官公吏社会に於ける水平運動……………文学士 太田秀穂
制度か人間か……………文学士 三輪田元道
自治公民の義務に就きて……………マスター・オブ・アアツ 千葉鉦蔵

泰西思潮

何故私は基督教徒でないか（中）（パートランド・ラツセル）

雑録

時弊小言（桑木厳翼）／善悪の標準と飲酒の是非（帆足理一郎）／人義道中（栗原英之助）／地方に移り住みて（瀧村生）／欧洲再遊所感（野田義夫）／本会記事

第三百四輯（1928年2月1日）

論説

選挙道德……………文学士 大島正徳
社会問題として見たる教員の境遇……………法貴慶次郎
神秘主義に於けるディアレクティック——サンタヤナの神秘主義観
……………文学士 山口等樹
欧洲再遊所感（完）……………文学博士 野田義夫
即と如……………文学博士 常盤大定

泰西思潮

何故私は基督教徒でないか（下）（パートランド・ラツセル）／独逸の青年運動（マーセル・レイモンド）

雑録

年号の不便と新傾向（山形東根）／海外便り（伊藤長七）／国際心養成と学校生活（伊藤長七）／本会記事

第三百五輯（1928年3月1日）

論説

経済と政治と道德との関係に関する思想……………文学博士 中村孝也
中等教育私議（主として教員待遇論）……………文学士 小豆沢英男
社会主義の歴史観と平等観……………文学士 藤井章
信仰と宗教的意識……………隈本有尚

泰西思潮

共産主義の推移（上）（ハロルド・ゼー・ラスキ）

雑録

各政党の教育政策（瀧川三軒）／普選に直面して（不染子）／本会記事

第三百六輯（1928年4月1日）

論説

日本は何処へ行く……………山形東根
選挙話……………文学士 大島正徳
近松とシエイクスピア……………宮森麻太郎
農村の荒廃とその救済策……………松本悟朗

泰西思潮

共産主義の推移（中）（ハロルド・ゼー・ラスキ）／何故米国は社会主義国たらぬか

雑録

道学先生たる一報酬（中島徳蔵）／草茅危言（第六）（小豆沢英男）／電車通勤雑話（野田義夫）

第三百七輯（1928年5月1日）

論説

労農露西亜に適用されたる共産主義……………文学士 赤神良譲
ウエルズの『それまでに』……………岡田哲蔵
明治維新の意義と議会中心政治論……………文学博士 深作安文
入学難と私学改善策……………文学士 大島正徳

泰西思潮

共産主義の推移（下）（ハロルド・ゼー・ラスキ）／将来の美学（マツシモ・ボンテンペリ）／米国の名士と職業との関係

雑録

野田醬油の労働争議（山形東根）／普選に現はれた政治心理（不染子）／随感数則

（瀧川三軒）／草茅危言（第七）（小豆沢英男）／国際連盟に関する教育／米国（一九二五年）犯罪の経済的結果（ブレンチス）／本会記事

第三百八輯（1928年6月1日）

論説

露西亜視察談……………米川正夫
旧思想と教育上の過失……………文学博士 野田義夫
現代の社会学説（上）（ソローキンの新著を読みて）……………布川静淵

泰西思潮

地球の人口（セニョール・ジー・フェルレロ）

雑録

何が共産党を産んだか（山形東根）／不祥事件所感（大島正徳）／本会記事

第三百九輯（1928年7月1日）

論説

最近心理学の傾向と「ウィリアム・ステルン」の教育説……………文学博士 林博太郎
現代の社会学説（中）——ソローキンの新著を読みて……………布川静淵
東西三大思潮の観察……………工学博士 田中龍夫

泰西思潮

ヘンリー・フォードの現代観／ソギエート露西亜の婦人（ラコフスキイ）／日本人の二重生活（ウインクラー）

雑録

学生の思想取締（山形東根）／宗教家は何を寄与せんとするか（瀧川三軒）／本会記事

第三百十輯（1928年8月1日）

論説

日本の議会政治に就て……………	田川大吉郎
教育の効果を論じて実際問題に及ぶ……………	文学士 芝田徹心
地球面の形勢と東西人類の命数……………	隈本有尚
所謂現実順応の弊……………	文学士 若木貞一
現代の社会学説（下の一）——ソローキンの新著を読みて……………	布川静淵

泰西思潮

現代文明と道德の進歩（シニョール・ジー・フェレロ）

雑録

文部当局の思想対策について（大島正徳）／突進的なる日本を眺めて（山形東根）
／時事小言（希声子）

第三百十一輯（1928年9月1日）

論説

社会理想と宗教及び哲学……………	文学博士 吉田熊次
所謂思想国難と教育……………	文学博士 春山作樹
思想対策とその態度……………	文学士 大島正徳
現代の社会学説（下之二、完）——ソローキンの新著を読みて……………	布川静淵
思想問題より見たる家族制度……………	小豆沢英男

泰西思潮

欧羅巴の人口問題（ピエール・ドミニク）

雑録

思ひ出づるままに（太田秀穂）／中等教育の外国語削減問題（得一居士）／支那に
対する正しき見解（山形東根）／銷夏漫録（不染子）／本会記事

第三百十二輯（1928年10月1日）

論説

荣誉表彰制度につきて……………	文学士 太田秀穂
善の発見の対話（デイキンソン）……………	岡田哲蔵

満洲の時事に関する所感の一二……………	法貴慶次郎
時代八面観……………	文学博士 下田次郎
政治的醜行の原因……………	文学士 大島正徳

泰西思潮

東洋の智慧と西洋の文明（エミール・ブービエ）

雑録

人物の型と思想対策（瀧川三軒）/時代思潮と最近の出来事（不染子）/近事片々（片々子）

第三百十三輯（1928年11月1日）

論説

不戦問題に関する疑義……………	文学博士 井上哲次郎
倫理問題としての移民……………	文学士 三輪田元道
精神的生活への勧め（實際宗教特に仏教の判釈）……………	隈本有尚
米国人の性情特質に就て……………	文学士 長尾行介
善悪を如何に理解すべきか——フィヒテ道德哲学考察……………	文学士 杉原圭三

泰西思潮

日支両国民の対照（上）（エルスワルス・ハンチントン）/米国人に就いて（現在米国の地位に関する英国人の観察）（メリー・ボーデン）

雑録

円本の流行と其の影響（山形東根）/芸術始源に関する一考察（吉田九郎）/本会記事

第三百十四輯（1928年12月1日）

論説

欧羅巴漫遊所感……………	文学博士 吉田静致
昭和維新と「本学」思想……………	文学士 小豆沢英男
倫理と感情……………	文学士 栗原英之助

既成宗教の衰微と低級宗教の流行……………布川静淵
学制改革の問題……………文学士 大島正徳

泰西思潮

日支両国民の対照（下）（エルスワルス・ハンチントン）／文化と工芸（ガストン・ラジュオー）

雑録

昭和三年を送る（山形東根）／バアナアド・シヨウの新著（瀧川三軒）／本会記事

第三百十五輯（1929年1月1日）

論説

自然を征服するの順序……………文学博士 三宅雄二郎
議会政治改良案……………田川大吉郎
思想問題と思想善導……………文学博士 深作安文
陽明学の研究……………山田準
温故知新の意義……………文学博士 林博太郎
現代の価値……………高島平三郎

雑録

不戦問題に関する余論（井上哲次郎）／基督教の日本化——その可能と契機（吉田熊次）／御大典と政治道德（大島正徳）／私人と賞典（小柳司気太）／偶感（上）（太田秀穂）／社会現象としての「思想悪化」（隈本有尚）／修身教授の実例（栗林英之助）／自由労働者の問題（宮田脩）／修身科と道德科（三輪田元道）／在米時代に於ける横井・岸本二君の事を誌す（千葉鉦蔵）／聖恩宏大——御親閲を仰いだ青年学生感激奮励せん（小豆沢英男）／本会記事

海外思潮

『太平洋沿岸に於ける諸人種の軋轢』——白人種、黄色人種及び黒人種の勢力均衡の不調和は将来の人種闘争の原因となるか（アンドレ・ダボスク）

（*「泰西思潮」が「海外思潮」に改称され「雑録」の後に配置される）

第三百十六輯（1929 年 2 月 1 日）

論説

- 自由の精神と学生……………文学博士 塚原政次
自由宗教の左翼と宗教の本質的要素
……………ドクトル・オブ・フロソフィー 帆足理一郎
東京市政浄化の選挙に際して……………文学士 大島正徳
思想「善導」の根本義……………隈本有尚
在満邦人の生活と其の国民性的考察……………内堀維文

雑録

- 辻高衡君を憶ふ（桑木敬翼）/辻高衡君を悼む（布川孫市）/東京市会議員の醜行
に就て（法貴慶次郎）/東京市会の疑獄についての一考察（宮田脩）/思想善導（土
田誠一）/『中学改善案』私見（水野治）/偶感（下）（太田秀穂）/本会記事

海外思潮

- 二十世紀に於ける露西亜の社会学（ピテリム・ソローキン）

第三百十七輯（1929 年 3 月 1 日）

論説

- 現代の日本と米国、支那、及び露西亜との文化の交渉
……………マスター・オブ・アーツ 千葉鉦蔵
東京市会の墮落に省み、市民の猛省を促がす……………法貴慶次郎
英国哲学の一面……………岡田哲蔵
労働者教育に就て……………文学士 小尾範治
パウルゼンの自由意志論（上）……………文学士 藤井章
読書法と現代教育……………布川静淵

雑録

- 時代相について（高島平三郎）/無意識の把握（杉森孝次郎）/信の教育（近藤兵
庫）/ペン・ネームに就て（布川静淵）/就職難と教育の改善（三輪田元道）/本
会記事/八王子市に於ける本会講演会記事

海外思潮

社会及歴史的過程の循環概念（上）（ピテリム・ソローキン）

第三百十八輯（1929年4月1日）

論説

自由平等の権利……………文学博士 吉田静致
思想善導義に就いて……………隈本有尚
景気の変動……………布川孫市
再び東京市会の墮落に省み、首都制度の改正を望む……………法貴慶次郎
国家生活の必然性……………文学博士 深作安文

雑録

寸言（太田秀穂）/随感録（下田次郎）/何故に学生は危険思想に傾くか（塚原政次）/大衆文芸は大衆文芸（倉橋惣三）/非現代的現代人（大島正徳）/少年裁判所に現はれた修身科と入学準備教育（山森平成）/本会記事

海外思潮

社会及歴史的過程の循環概念（下）（ピテリム・ソローキン）/仏人の欧洲対米国民文明観（アンドレ・ジー・ジエグフリード）

第三百十九輯（1929年5月1日）

論説

学者気質……………文学博士 桑木厳翼
現代教育の欠陥……………文学士 栗原英之助
教育の改造（上）……………ドクトル、オブ、フィロソフィ 帆足理一郎
パウルゼンの自由意志論（下）……………文学士 藤井章
欧洲の改造と其の倫理……………文学士 友枝高彦

雑録

昔がたり（一）（得能文）/時事管見（一）（高島平三郎）/随感数則（静淵生）/東京市会議員候補に立ちての感想（三輪田元道）/教育改善の転機に立ちて（伊藤長七）/大衆物と時代相（紀平正美）/本会記事

海外思潮

近代文明の全景（上）（チャーレス・エー・ビヤード）

第三百二十輯（1929 年 6 月 1 日）

論説

支那民族の積極性……………内堀維文
教育の改造（下）……………ドクトル・オブ・フィロソフィ 帆足理一郎
エドムンド・ゴッスの『父と子』……………岡田哲蔵
国民道德概念論——特に国民道德の限界を明にす……………文学士 鶴藤幾太
指導者の教育……………文学博士 春山作樹

雑録

旧いものと新しいものと（桑田芳蔵）/古武士と今の教育家（隈本有尚）/大学入
学難（塚原政次）/時事管見（二）（高島平三郎）/国民精神の作興と尚武道の奨
励（小豆沢英男）/昔がたり（二）（得能文）/本会記事

海外思潮

近代文明の全景（中）（チャーレス・エー・ビヤード）

第三百二十一輯（1929 年 7 月 1 日）

論説

人間の非生命と非生殖……………文学博士 三宅雄二郎
孤立か共生か……………伊藤長七
丁西倫理会家族遠足会当日……………伊藤長七
国民の眞実性を害ふもの二つ……………大島正徳
国民精神批判……………近藤兵庫
黎明期の女子教育を語る……………布川静淵

雑録

高等教育機関急造の弊と憂ふべき懷疑学風（法貴慶次郎）/思想問題と所謂道（小
柳司気太）/不戦條約中「人民の名に於て」の問題に就て（無名生）/昔がたり（三）

(得能文) / 大衆物の時代 (小尾範治) / 本会記事

海外思潮

近代文明の全景 (下) (チャーレス・エー・ビヤード)

第三百二十二輯 (1929 年 8 月 1 日)

論説

変装せる封建思想……………文学博士 吉田熊次
欧米より戻りて……………結城豊太郎
文明の三大要素……………隈本有尚
濱口内閣に望む……………大島正徳

雑録

政変と其意義 (杉森孝次郎) / 内閣更迭と人事行政 (帆足理一郎) / 娯楽 (倉橋惣三) / 昔がたり (四) (得能文) / 時事管見 (三) (高島平三郎) / 甲府市の出張講演会に臨みて (小豆沢英男)

海外思潮

哲学者と職業及び金 (アレキサンデル・ヘルツベルグ) / 本会記事

第三百二十三輯 (1929 年 9 月 1 日)

論説

仏教の福田思想……………文学博士 常盤大定
人生と優越……………ドクトル・オブ・フィロソフィ 帆足理一郎
農村青年訓練所としての丁秣国民高等学校……………文学博士 野田義夫
娯楽と教化……………小尾範治
我国の将来に就いて……………文学博士 塚原政次

雑録

ロックと走馬燈——空電漫録 (一) (桑木厳翼) / 近時所感 (太田秀穂) / 小笠原島に立ちて (近藤兵庫) / 随感随録 (隈本有尚) / 運動競技が日本を代表する日 (内堀維文)

海外思潮

哲学者と恋愛及結婚（アレキサンデル・ヘルツベルグ）／米露両国に於ける離婚
の激増（ジュリアス・ホルツベルグ）

第三百二十四輯（1929 年 10 月 1 日）

論説

節約運動の批判……………三輪田元道
現時の病的現象に就て……………高島平三郎
教育及び学風について……………文学博士 小柳司気太
詩人サスーンの「心の旅」……………岡田哲蔵
現世往生義に就いて……………隈本有尚
境涯の向上……………栗原英之助

雑録

スピノザと日本——空寛漫録（二）（桑木巖翼）／近時所感（二）（太田秀穂）／廃
れたる静坐法（木村架空）／アメリカに於る大学教育界の革新機運（松本悟朗）
／草茅危言（第十）（小豆沢英男）／中等学校に於ける修身教授振作の一具体案と
して拙著「青年修身」著作の趣旨を明かにする（湯原元一）

海外思潮

哲学者と社交及政治（アレキサンデル・ヘルツベルグ）

第三百二十五輯（1929 年 11 月 1 日）

論説

書道大観——但し斯道の一年生として……………文学博士 村上専精
教化総動員に試みられんとする現内閣……………大島正徳
政策としての節約宣伝について……………法貴慶次郎
農村社会学の研究（上）……………布川静淵
国家と道德……………土田誠一

雑録

道德の生活化（吉田熊次）／特殊道德の弊（帆足理一郎）／三十六年後のニューヨーク市（上）（松本悟朗）／近時所感（三）（太田秀穂）

海外思潮

哲学者と神経病（アレキサンデル・ヘルツベルグ）

第三百二十六輯（1929年12月1日）

論説

英独の学校に於ける教授法を視て我邦の学校教授法の欠点を思ふ……溝淵進馬
孔老の思想……文学博士 遠藤隆吉
道德哲学と実践の問題……近藤兵庫
附本相扶之原理……小豆沢英男
村上専精先生を追憶して……文学博士 常盤大定
本会記事

雑録

グリーン婦人の事——空寛漫録（三）（桑木厳翼）／閃光録（下田次郎）／現時の世相について（塚原政次）／近時所感（四）（太田秀穂）／家族制度に就て（布川静淵）／三十六年後のニューヨーク市（下）（松本悟朗）／時事管見（四）（高島平三郎）

海外思潮

唯物論は共產主義の基礎か（イサベル・キングスレイ）

第三百二十七輯（1930年1月1日）

論説

偉人祭と水戸義公……文学博士 深作安文
青年と思想問題……文学博士 桑田芳蔵
台湾の印象……文学博士 塚原政次
国際会議の意義と価値……友枝高彦
マルキシズムの批判……政治学博士 五來欣造

倫理運動の問題……………文学博士 三宅雄二郎

雑録

疑獄世相観（大島正徳）/政治の浄化と選挙の問題 外一篇（帆足理一郎）/学者の秘蔵庫（隈本有尚）/大國隆正大人の霊祭に列して（小豆沢英男）/職業と超職業（小尾範治）/学生々活意識（布川静淵）

海外思潮

唯物論は共産主義の基礎か（再び）（イサベル・キングスレイ）

第三百二十八輯（1930年2月1日）

論説

我が国体の尊厳並に精神作興の意義（上）……………芝田徹心
「魔女」と「偶像」……………岡田哲蔵
有識無能者の過剰……………太田秀穂
青年学生の左傾運動に就いて……………文学博士 野田義夫
疑獄事件を中心とした問題……………三輪田元道

雑録

山梨大将事件（吉田熊次）/山梨大将事件批判（小豆沢英男）/軍人は軍人で終始せよ（塚原政次）/日本国民の威信を傷つけるもの（帆足理一郎）/疑獄と良心（大島正徳）/新聞小説に現はれた三つの倫理的組織（島本愛之助）/女性の街頭進出（杉森孝次郎）/本会記事

海外思潮

科学的世界観に立つ新道徳（上）（ウヰリアム・ケイ・ウオーレス）

第三百二十九輯（1930年3月1日）

論説

欧米を巡りて（一）……………文学博士 林博太郎
仏教の真髓果して日本に受持されてありや？……………隈本有尚
我が国体の尊厳並に精神作興の意義（下）……………芝田徹心

学生左傾の真因及び学生の思想指導に就て……………岡田恒輔
雑録

神社問題私見（近藤兵庫）/学校騒動に就ての考案（野田義夫）/学校騒動と寺子
屋式の教育（三輪田元道）/学校騒動論（小豆沢英男）/選挙を語る（大島正徳）
/明治十四年の旅（上）——昔がたり（五）（得能文）/時事管見（五）（高島平三
郎）/学生の左傾思想と体育（塚原政次）

海外思潮

科学的世界観に立つ新道德（下）（ウキリアム・ケイ・ウオーレス）

第三百三十輯（1930年4月1日）

思想の推移とその帰結……………文学博士 吉田熊次
総選挙の分量的考察……………布川孫市（静岡）
我国の現在を直視して……………高島平三郎
ロンドン会議について……………海軍大佐 下村正助
欧米を巡りて（二）……………文学博士 林博太郎



総選挙に関連して……………文学博士 春山作樹
総選挙の成算と二大問題……………大島正徳
総選挙を顧みて特別議会に望む…ドクトル、オブ、フィロソフイー 帆足理一郎
特別議会に望む案件の内……………杉森孝次郎
義務教育費国庫負担の問題……………法貴慶次郎
草茅危言……………小豆沢英男
明治十四年の旅（下）——昔がたり……………文学博士 得能文
本会記事

海外思潮

輓近の英国社会思想（上）（ロバート・エッチ・マレイ）

（*項目「論説」「雑録」がなくなり、表紙上では~~~~~で各項目を区別。編集幹事が中島徳
蔵から大島正徳に交代）

第三百三十一輯（1930年5月1日）

政界浄化と公民教育……………	文学博士 深作安文
倫敦會議と国民心理……………	内堀維文
「美の契約」とその序詞……………	岡田哲蔵
欧米を巡りて（三）……………	文学博士 林博太郎
国際連盟の性質及び任務に就て……………	青木節一

哲学界の揺籃——昔がたり、七……………	文学博士 得能文
就職難とそれの対策……………	三輪田元道
現存教育の清算期？……………	杉森孝次郎
ジャズ式現代相を惜む……………	宮田脩
初婚と友愛結婚……………	文学博士 塚原政次
本会記事	

海外思潮

輓近の英国社会思想（中）（ロバート・エツチ・マレー）/ラッセルの友愛結婚観 （バートランド・ラッセル）
--

第三百三十二輯（1930年6月1日）

自力と他力……………	文学博士 三宅雄二郎
団体生活の道德的意義……………	大島正徳
欧米を巡りて（四—完）……………	文学博士 林博太郎
職業的愛国者……………	太田秀穂
自我の建設……………	ドクトル・オブ・フィロソフイー 帆足理一郎
本会記事	

公德心に就て……………	文学博士 桑田芳蔵
一旦緩急主義の教育を難ず……………	青木節一
教育者と経済闘争……………	近藤兵庫

二つの暴力行為と其の防遏策……………	政治学博士 五来欣造
隠岐巡遊記……………	小豆沢英男
ロバート・ブリヂェズ逝く……………	岡田哲蔵
伊藤長七君を追悼す……………	友枝高彦

海外思潮

輓近の英国社会思想（下）（ロバート・エツチ・マレイ）

第三百三十三輯（1930年7月1日）

道について……………	文学博士 小柳司気太
憂ふべき我が議会の墮落……………	法貴慶次郎
青年と道德思想……………	文学博士 野田義夫
我が民族社会の独自性……………	小尾範治
明治以後に於ける本邦教育の文化史的考察……………	文学博士 吉田熊次



御聖徳を仰ぎまつりて……………	高島平三郎
生きた道德問題……………	三輪元天道
極東大会と女学生問題……………	文学博士 塚原政次
協議と学生々活の違つた見方……………	大島正徳
良臣忠臣其揆一なり（青木節一氏の駁論に答ふ）……………	小豆沢英男
教育精神の建て直し……………	宮田脩
本会記事	

海外思潮

高度都会化社会の将来（ピチリム・エー・ソローキン）

第三百三十四輯（1930年8月1日）

「ある」自我と、「あるべき」自我……………	文学博士 常盤大定
脳中無一物の好漢の陥る左傾思想……………	文学博士 遠藤隆吉
柱冠詩人の継承……………	岡田哲蔵

水平線的社会と垂直線的社会……………文学博士 吉田静致
道德意識の発達……………文学博士 淡路円治郎

~~~~~

在京の学生と其の背後の人々……………文学博士 下田次郎  
学校騒動の種子蒔き……………大島正徳  
公民的教養の概念……………近藤兵庫  
英国倫敦の倫理教会……………土田誠一  
欧米の旅より歸りて……………文学博士 入沢宗寿

海外思潮

産業合理化と之に伴ふ危険（マーク・ウェブスター・ゼンキンスン）/本会記事

第三百三十五輯（1930年9月1日）

青年の求むるもの……………文学博士 春山作樹  
人類接触の新たな動き——その一、政治的……………友枝高彦  
個人主義道德の清算……………杉森孝次郎  
生活と職業と本分……………文学博士 三宅雄二郎  
体力と心力の平等か……………三輪田元道  
高等学校論……………溝淵進馬

~~~~~

不信心の悶え……………文学博士 得能文
新造語の時代相……………大島正徳
我國民教育者の自重を望む……………内堀維文
自主独立の精神に乏しい青年……………文学博士 塚原政次
農村の苦痛——近時所感、四篇……………太田秀穂
大東京の体面——時事短評、四篇
……………ドクトル・オブ・フィロソフイー 帆足理一郎

海外思潮

宣伝の心理学（エドワード・エル・バーネイズ）/本会記事

三百三十六輯 (1930 年 10 月 1 日)

教育勅語渙発四十年所感……………	文学博士 井上哲次郎
教育勅語と思想問題……………	文学博士 吉田熊次
教育勅語と国民道德の発達……………	文学博士 野田義夫
教育に関する勅語と明治思想史……………	文学博士 深作安文
欧米諸国の国民教育への関心……………	文学博士 入沢宗寿

~~~~~

|                       |           |
|-----------------------|-----------|
| 教育勅語と国民的自己意識の動き……………  | 文学博士 紀平正美 |
| 教育勅語御発布四十年記念に際して…………… | 太田秀穂      |
| 我が大道と訓育……………          | 土田誠一      |
| 感想、一二……………            | 大島正徳      |

海外思潮

教育の宣伝 (エドワード・エル・パーネーズ) / 本会記事

第三百三十七輯 (1930 年 11 月 1 日)

|                     |           |
|---------------------|-----------|
| カントの性的道德論……………      | 島本愛之助     |
| 公民教育の意義……………        | 文学博士 林博太郎 |
| 現代に於ける古印度思想の動き…………… | 隈本有尚      |
| 文化生活と原始生活……………      | 文学博士 桑田芳蔵 |
| 人格の普遍的統一性……………      | 近藤兵庫      |
| 本邦教育学の祖益軒先生……………    | 文学博士 春山作樹 |

~~~~~

老いたる浦島の疑ひ……………	文学博士 得能文
学問熱を殺す試験制度……………	杉森孝次郎
軽々視すべからざるカンニング……………	三輪田元道
カンニングと性格教育の破滅……………	大島正徳

海外思潮

共産主義の是非 (上) (アンナ・ロチエスター) / 本会記事

第三百三十八輯（1930 年 12 月 1 日）

欧米に於ける新教育運動……………	文学博士	入沢宗寿
東洋に於ける教育の根本義……………	文学博士	小柳司氣太
生活とスポーツ……………	文学博士	下田次郎
七年制高等教育に就いて……………	文学博士	塚原政次
教育勅語と関係問題……………	文学博士	井上哲次郎

教育精神及び制度の改造	大島正徳
カンニングは自己欺瞞	ドクトル・オブ・フィロソフイー 帆足理一郎
欧洲旅行談（報告に代へて）	文学博士 桑木厳翼
明治思想史の一節（概要）	法学博士 尾佐竹猛
本会記事	

海外思潮

共産主義の是非（中）（アンナ・ロチエスター）

第三百三十九輯（1931 年 1 月 1 日）

独仏に於ける文化闘争(上)	文学博士	桑木厳翼
小泉八雲の思想		岡田哲蔵
夫婦道を論ず	文学博士	藤井健治郎

偶感録……………	文学博士	巽軒学人
「以テ」の弁……………		近藤兵庫
行き詰りの説……………	文学博士	遠藤隆吉
明治思想史上に於ける教育勅語渙発の意義……………	文学博士	吉田熊次
偏知と体験……………	文学博士	入沢宗寿
浜口首相遭難と国家的教育の欠陥……………		島本愛之助
幕末式現代……………		大島正徳

学生自治と学校騒動の予防策……ドクトル・オブ・フィロソフイー	帆足理一郎
更生五年……	文学博士 野田義夫
三正の古実……	隈本有尚
ロボット……	文学博士 得能文
三階総出……	文学博士 姉崎正治
本会記事	

海外思潮

共産主義の是非（下）（ゼローム・デイヴキス）

第三百四十輯（1931年2月1日）

思想家としての大西博士の人格——没後三十年記念会に於ける談話	
……	文学博士 姉崎正治
黎明期哲学に於ける大西博士——没後三十年記念会に於ける談話	
……	文学博士 金子馬治
独仏に於ける文化闘争（下）……	文学博士 桑木厳翼
我が国に於ける批判主義……	文学博士 深作安文
活動の遊戯化、生活の芸術化……	文学博士 常盤大定
私立大学の前途……	文学博士 春山作樹



現時の急務——平和と公正……	高島平三郎
徴兵制度の倫理化……	三輪田元道
藤井健治郎氏の逝去	

海外思潮

現代の青年運動（エツチ・エー・ギツボンス）/ジョン・デュウイの経験主義（シュナイダア・神代峻通訳）

第三百四十一輯（1931年3月1日）

我国教育上の二大重要問題に就いて……	麻生正蔵
--------------------	------

新形成を必要とする戦後の倫理（上）	杉森孝次郎
支那古文化の璧玉	隈本有尚
大西博士と啓蒙思想	文学博士 桑木厳翼

元一君への手紙	文学博士 朝永三十郎
藤井健治郎博士を追憶す	文学博士 井上哲次郎
藤井君を追懐す	文学博士 桑木厳翼
藤井君に就いて想ひ出す事ども	文学博士 吉田静致
故藤井兄の生平	文学博士 常盤大定
カンニングの行はれる禍根	宮田脩
個人と社会との関係に対する問題	杉原圭三
議会の顔と国民の心	大島正徳
大西博士記憶の断片	岡田哲蔵

海外思潮

現代労働者の政界進出（ギツボンス）/本会記事

第三百四十二輯（1931年4月1日）

最善の生活法	文学博士 三宅雄二郎
日本社会史の特性	瀧川政次郎
北京大学教育系視察団の日本教育観	内堀維文
新形成を必要とする戦後の倫理（下）	杉森孝次郎
責任感と教育（上）	文学博士 林博太郎

議会暴行の心理	文学博士 遠藤隆吉
議会の騒擾を憂へて	高島平三郎
失言問題と議会の浄化	三輪田元道
丘博士の「人類下り坂説再論」を読む	文学博士 吉田熊次

海外思潮

仏蘭西政治の心理学（上）（アンドレ・ジイグフリード）/日本人が寒地に成功せ

ざる理由 (ワーレン・トンプスン)

第三百四十三輯 (1931 年 5 月 1 日)

生活競争の刺戟最切なる時に際し孫子を読んで感あり……………法貴慶次郎
現時の日本及び日本人 (上) ……………高島平三郎
責任感と教育 (下) ……………文学博士 林博太郎

~~~~~  
公民科と社会思想……………文学博士 野田義夫  
公民科の心……………大島正徳  
修身科と公民科との関係及区別に就て……………近藤兵庫  
政党は国民心理の反映……………三輪田元道  
「奥蓬広録」を読む……………布川静淵  
ローレンス・ビニョンの近作……………岡田哲蔵  
友人島本君を憶ふ……………大島正徳  
島本愛之助君を追憶す……………文学博士 井上哲次郎  
島本君を憶ふ……………文学博士 桑本厳翼  
本会記事/島本愛之助氏の訃音

海外思潮

仏蘭西政治の心理学 (下) (アンドレ・ジイグフリード)

第三百四十四輯 (1931 年 6 月 1 日)

一旅人の目に映じたる最新の支那……………宮田脩  
現時の日本及び日本人 (下) ……………高島平三郎  
政治教育について……………政治学博士 高橋清吾

~~~~~  
被治者の心理……………太田秀穂
教育受難と軍備改革及び官学廃止…ドクトル・オブ・フィロソフィ 帆足理一郎
島本君を憶ふ……………文学博士 速水滉

「斯文」に於ける関谷局長の所論を読む……………文学博士 小柳司気太
文部省廃止問題……………大島正徳

海外思潮

共産党指導者の統計分析（上）（ジエローム、デヴィス）

第三百四十五輯（1931年7月1日）

将さに来たらんとする社会組織上の一大革命

……………マスタア・オブ・アアツ 千葉欽蔵

新心理説と社会及び文化……………文学博士 桑田芳蔵

ソヴィエツ・ルシアの倫理的批判

……………ドクトル・オブ・フィロソフイ 帆足理一郎

人類史上四輪紀の建前に就いて……………隈本有尚



緊縮政策と倫理……………文学博士 吉田熊次

公民的訓練に就て……………小尾範治

教育時事雑感……………文学博士 入沢宗寿

社会は暗示によつて動く……………三輪田元道

暗示から雷同から「山」へ……………大島正徳

新旧思想の衝突と将来の展望……………文学博士 紀平正美

本会記事

海外思潮

共産党指導者の統計分析（下）（ジエローム、デヴィス）

第三百四十六輯（1931年8月1日）

郷土教育の倫理的意義……………文学博士 野田義夫

現代の常識……………文学博士 吉田静致

各種の水平運動……………太田秀穂

世相と青年……………文学博士 塚原政次

現代と儒教……………文学博士 深作安文

~~~~~

恩給までの命……………大島正徳

故山川健次郎先生を偲ぶ……………文学博士 深作安文

公民科の基礎としての道德教育……………宮田脩

精神教育の奨励に関して……………高島平三郎

本会記事

### 海外思潮

共産主義は我等に福利を齎らす乎（上）（カルビン・フーヴァ）

### 三百四十七輯（1931年9月1日）

啓蒙時代修養書の一標本——ヘーゲルに輕侮せられたる修養処世訓

……………文学博士 桑木巖翼

学制改革の問題……………文学博士 春山作樹

大学予科二年説について……………文学博士 塚原政次

宗教と道德と品行……………文学博士 三宅雄二郎

~~~~~

反宗教運動を清掃運動として……………ドクトル・オブ・フィロソフィ 帆足理一郎

反宗教運動に就て既成宗教に望む……………三輪田元道

更生か漸衰か……………近藤兵庫

恩給に関する軍部の特異性に就て……………太田秀穂

反宗教運動対反反宗教運動……………小尾範治

海外思潮

共産主義は我等に福利を齎らす乎（中）（カルヴィン・フーヴァ）/日本人人口問題
の中心（ダブリュウ・クロツカー）

第三百四十八輯（1931年10月1日）

再学制改革案を論ず……………文学博士 春山作樹

ハクスリの『光明の世界』	岡田哲蔵
仏教より見たる反宗教運動	文学博士 常盤大定
倫理上より見たる反宗教運動	文学博士 吉田熊次
行政意識を脱せざる学制改革案	宮田脩
本会記事	

反宗教運動を評す	文学博士 深作安文
改良と革命	近藤兵庫
学制改革の議に就いて	隈本有尚
随感随想録	高島平三郎
満洲の瞥見	文学博士 下田次郎
米国に於ける我が一世と二世	文学博士 林博太郎

海外思潮

共産主義は我等に幸福を齎らす乎（下）（カルヴァン・フウヴァ）/遊戯費年額四百三十億円	
--	--

第三百四十九輯（1931年11月1日）

文化国是	文学博士 常盤大定
社会教育の重要性（上）	小尾範治
劳作教育の倫理的意義	文学博士 野田義夫
日本民族の使命と対支国策	宮田脩
学制改革案と高等普通教育の低下	文学博士 塚原政次

浜口雄幸氏の「随感録」を読む	文学博士 井上哲次郎
社会の不安定	文学博士 桑田芳蔵
時局に対する自己の信念	文学博士 紀平正美
時事問題雑感	三輪田元道
黄金の猛威を殺げ	ドクトル・オブ・フィロソフィ 帆足理一郎
満洲より山東まで	内堀維文

本会記事

海外思潮

ロシアの国民性と文明（一）（布川孫市）

第三百五十輯（1931年12月1日）

- 領土の倫理性と満洲問題——国際連盟の基礎的制限……………杉森孝次郎
社会教育の重要性（下）……………小尾範治
東亜細亜の二大民族……………文学博士 三宅雄二郎
教育上より見たる満洲……………文学博士 下田次郎
米国に於ける教育及び文化の今日（上）……………文学博士 林博太郎

- ~~~~~
国際連盟と満洲問題……………文学博士 吉田熊次
思想悪導……………太田秀穂
満洲問題に対する国際連盟の措置に就て……………青木節一
「新」感想……………大島正徳

海外思潮

ロシアの国民性と文明（二）（布川孫市）

第三百五十一輯（1932年1月1日）

- 満洲と日支両国との関係……………文学博士 井上哲次郎
満洲問題に対する倫理的考察……………友枝高彦
満洲事変と孫氏の三民主義……………法貴慶次郎
国際主義と国際連盟と戦争……………文学博士 深作安文
本会記事

- ~~~~~
カンペとカント……………文学博士 桑木厳翼
正倉院を拝観して……………文学博士 速水滉
自然に就いて……………文学博士 得能文

農村は何処に往くか……………	太田秀穂
輿論の破綻……………	近藤兵庫
時局と国民の覚悟……………	小豆沢英男
国民難航……………	大島正徳
除夜の感想……………	高島平三郎
年頭所感……………	文学博士 野田義夫
仏基二教に関する現代日本諸家の論争に就て……………	隈本有尚
井上先生の「感懐」の英訳……………	岡田哲蔵

海外思潮

ロシアの国民性と文明（三）（布川孫市）

第三百五十二輯（1932年2月1日）

商業主義の蔓延……………	文学博士 三宅雄二郎
米国に於ける教育及び文化の今日（中）……………	文学博士 林博太郎
財界の現状に就て（上）……………	矢野恒太
理念を見失へる現代（上）……………	小尾範治
社会理想建設の原理（上）……………	文学博士 吉田熊次
立憲的忠君愛国論……………	大島正徳



内閣の更迭について……………	三輪田元道
----------------	-------

海外思潮

ロシアの国民性と文明（四）（布川孫市）

第三百五十三輯（1932年3月1日）

ファシズム……………	杉森孝次郎
米国に於ける教育及び文化の今日（下）……………	文学博士 林博太郎
社会理想建設の原理（下）……………	文学博士 吉田熊次
理念を見失へる現代（下）……………	小尾範治

財界の現状に就て(下)	矢野恒太
選挙革新について	坂千秋

ミューアヘッド氏に就て	文学博士 桑木巖翼
支那民族性の所謂「材幹」につきて	内堀維文
膺懲思想を排す	ドクトル・オブ・フィロソフィ 帆足理一郎
あまりに非合法的な本能的な	大島正徳
暗殺論	三輪田元道
井上前蔵相の遭難	文学博士 春山作樹
井上前蔵相暗殺事件と現代社会の欠陥	宮田脩
故井上準之助氏の片鱗	麻生正蔵
日支軍隊士気相違の原因について	文学博士 井上哲次郎

海外思潮

ロシアの反宗教運動(上)(布川孫市)

第三百五十四輯(1932年4月1日)

満洲の王道立国に就いて	文学博士 井上哲次郎
満蒙対策は移民第一	法貴慶次郎
満洲国の文化施設に対する要望	文学博士 常盤大定
再びファシズムについて	杉森孝次郎
日米文化の相違	大島正徳

時局雑感	文学博士 紀平正美
米国の対日経済封鎖問題	布川孫市
陰悪なる世相とその対策	太田秀穂
本会記事	

海外思潮

ロシアの反宗教運動(下)(布川孫市)

第三百五十五輯（1932年5月1日）

現代生活と宗教の改造	帆足理一郎
ファシズムの倫理的批判	文学博士 吉田熊次
政治をめぐった思想問題	大島正徳
政界浄化の一路	三輪田元道



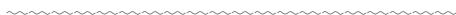
偉大ならざるの罪	岡田哲蔵
時事漫言	高島平三郎
神道研究の新分野——加藤玄智博士著『本邦生祠の研究』	文学博士 深作安文
新満洲国に対する希望	文学博士 小柳司気太
満洲建国即ち赤子来	芝田徹心
満洲建国と我が国民の覚悟	文学博士 下田次郎
本会記事	

海外思潮

アメリカの横顔（布川孫市）

第三百五十六輯（1932年6月1日）

要するに人間	麻生正蔵
学校の経営と営業	文学博士 三宅雄二郎
新満洲国の建設と日本国民の責任	ドクトル・オヴ・フィロソフイー 上田恭輔
本会記事	



近攻か脣齒か	文学博士 常盤大定
満蒙進出と国内的反省の急務	宮田脩
一實際家より観たる思想問題対策	近藤兵庫
或る女性相談に就いて	高島平三郎
底に動きつつあるものを凝視せよ	文学博士 紀平正美
既にファッショ化か	大島正徳

左傾か右傾か……………	文学博士	塚原政次
愛国の再吟味……………	文学博士	深作安文
田中王堂君を偲ぶ……………	文学博士	桑木巖翼

海外思潮

独逸社会思想の特徴とブルジョア文明の危機（上）

第三百五十七輯（1932年7月1日）

病を知る者は誰か……………	文学博士	春山作樹
三民主義の批評……………	文学博士	小柳司気太
児童を中心とする社会教育運動……………		小尾範治
西洋にも精神科学の提唱……………	文学博士	桑田芳蔵



現内閣成立の倫理的意味……………	文学博士	吉田熊次
農村救済問題について……………	ドクトル・オヴ・フィロソフイー	帆足理一郎
満蒙国家の解消せざらんことを祈る……………	文学博士	遠藤隆吉
救済と自律的態度……………		大島正徳
時局不安……………		杉森孝次郎

海外思潮

独逸社会思想の特徴とブルジョア文明の危機（下）/ 本会記事

第三百五十八輯（1932年8月1日）

自然と文化の一瞥……………	文学博士	得能文
縦と横との連絡統一……………		太田秀穂
思想転廻の時期……………	文学博士	常盤大定
対支随感随話……………		今関天彭
学制改革と私学問題……………		大島正徳



世相一瞥……………	文学博士	深作安文
-----------	------	------

満洲国承認の責任……………	杉森孝次郎
弘暁の散歩……………	文学博士 野田義夫
難局打開は精神より……………	高島平三郎
本会記事	

海外思潮

フアシズムの精神的史観（静雄子）

第三百五十九輯（1932年9月1日）

孫逸仙の三民主義について……………	文学博士 井上哲次郎
階級意識に就て……………	文学博士 紀平正美
対満洲国策私見……………	宮田脩
盜賊と乞食……………	文学博士 三宅雄二郎
国民窮乏の一大原因……………	三輪田元道

~~~~~

|                  |           |
|------------------|-----------|
| 空霓漫談……………        | 文学博士 桑木厳翼 |
| 自己弁解の倫理……………     | 文学博士 吉田熊次 |
| オリムピックと青年外交…………… | 大島正徳      |

海外思潮

時局救済と日仏両国の特殊性（布川静淵）

第三百六十輯（1932年10月1日）

|                                   |           |
|-----------------------------------|-----------|
| 戦後ナショナリズムの分析——時局の根本的把握の一角として…………… | 杉森孝次郎     |
| 王道難……………                          | 岡田哲蔵      |
| 現実哲学の倫理について……………                  | 近藤兵庫      |
| スポーツマンシップ……………                    | 文学博士 下田次郎 |
| 学生の処分問題……………                      | 文学博士 塚原政次 |

~~~~~

応急策と恒久策……………	太田秀穂
--------------	------

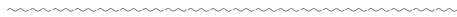
公民学を説く前に……………	高島平三郎
時事感想……………	文学博士 読我生
「おまけ」の心理……………	大島正徳
本会記事	

海外思潮

自力更生の運動と日英両国の対照（布川静淵）

第三百六十一輯（1932年11月1日）

人格について……………	文学博士 西田幾多郎
平面国の社会状態……………	文学博士 桑木厳翼
英国に於けるマルクス主義——組合社会主義について……………	文学博士 深作安文
国民更生運動の本義……………	大島正徳
日満親善……………	香原生



時事三題……………	文学博士 春山作樹
生命の軽侮……………	文学博士 桑田芳蔵
紙芝居と夢……………	文学博士 常盤大定
時局と青年教育……………	小尾範治
満洲問題の将来……………	ドクトル・オヴ・フィロソフィ 帆足理一郎
思想不安と教育の改善……………	文学博士 小柳司気太
署名の責任……………	太田秀穂

海外思潮

リットン報告書と国民の反省（布川静淵）

第三百六十二輯（1932年12月1日）

社会の分化と業務道德の発達……………	友枝高彦
王道満洲国の元首と総理……………	内堀維文
共產主義流行の時所位……………	布川静淵

鉱山と工場に生きた宗教を視て……………	麻生正蔵
本会記事	

一感一評……………	三輪田元道
昭和壬申の歳を送るに当り国民の真剣味を促す……………	小豆沢英男
現時痛切なる人類の要求は何か……………	高島平三郎
大衆青年教育の国家的重大性……………	大島正徳

第三百六十三輯（1933年1月1日）

自力更生の問題 国民指導原理の問題

自力更生と国民指導原理との要件……………	文学博士 桑木厳翼
自力更生の論理……………	文学博士 吉田熊次
自力更生の提唱について……………	法貴慶次郎
自力更生に就いて……………	高島平三郎
自力更生……………	文学博士 小柳司気太
自力更生の常道……………	文学博士 常盤大定
自力更生について……………	文学博士 塚原政次
自力更生運動の批判……………	三輪田元道
自力更生と国家非常時の教育……………	文学博士 野田義夫
自力更生と過去の教育……………	宮田脩
国民指導原理の問題……………	文学博士 春山作樹
我日本発展の指導原理に就いて……………	文学博士 井上哲次郎
国民の指導原理について……………	近藤兵庫
国民指導原理に就て……………	布川孫市
現代の指導原理……………	文学博士 深作安文
現代の指導原理……………	杉森孝次郎
現代の指導原理としての付本相扶……………	小豆沢英男
非常時と常時……………	太田秀穂
変動期に直面して……………	小尾範治

背底に横はるもの……………	大島正徳
郷土教育と農村教育問題……………	文学博士 入沢宗寿
現代政局の二大疑問……………	隈本有尚
満洲国の将来と其教育……………	内堀維文
認識不足と指導原理及自力更生……………	香原一勢
道徳的なもの……………	文学博士 吉田静致

海外思潮

スペイン気質 (M、S、N) / 本会記事

第三百六十四輯 (1933 年 2 月 1 日)

ボアディシア (Boadicea) 女王の抗争……………	岡田哲蔵
社会発達の契機としての社会問題……………	友枝高彦
非常時と教育……………	文学博士 塚原政次
テクノクラシーと現代……………	杉森孝次郎
思想犯について……………	三輪田元道



噫内堀維文君……………	法貴慶次郎
内堀維文君の追憶……………	太田秀穂
議会と思想問題……………	大島正徳
国民の自覚と努力……………	文学博士 下田次郎
日本の支那満洲に対する認識に就て——内堀先生の長逝を痛みて……………	香原一勢

海外思潮

人生の評価 (布川静淵) / 本会記事/内堀維文君の逝去

第三百六十五輯 (1933 年 3 月 1 日)

必要から道徳へ……………	文学博士 三宅雄二郎
新世界観の要望……………	文学博士 常盤大定
共産党事件と思想対策の根本義……………	ドクトル・オブ・フィロソフィ 帆足理一郎

歐洲に於けるファッシズムに就いて（上）……………	政治学博士 五来欣造
児童虐待防止法の成立と其の社会倫理的効果……………	倉橋惣三

原理なき日本……………	太田秀穂
悲壮なる国諫……………	高島平三郎
政変なら総選挙……………	大島正徳

海外思潮

日本の連盟脱退と国際政局の転換（布川静淵）

第三百六十六輯（1933 年 4 月 1 日）

儀礼……………	文学博士 春山作樹
連盟脱退と日本国民の道義……………	宮田脩
歐洲に於けるファッシズムに就て（完）……………	政治学博士 五来欣造
彼を知り己を知る……………	太田秀穂
教師と左傾思想……………	文学博士 塚原政次
孤立日本の将来……………	文学博士 井上哲次郎
本会記事	

国民の冷熱……………	文学博士 桑田芳蔵
連盟脱退の日本のもつべき意識……………	杉森孝次郎
教学について……………	文学博士 小柳司気太
非常時の内と外……………	大島正徳
広告教育の必要……………	香原一勢

海外思潮

テクノクラシーと宗教及教育（ハロルド・ロエブ）

第三百六十七輯（1933 年 5 月 1 日）

天才の擁護……………	文学博士 下田次郎
------------	-----------

琉球の社会と文化……………	文学博士	吉田熊次
農村救済と農村教育……………	文学博士	入沢宗寿
人生行路難の打解と孝道の作興……………	文学博士	麻生正蔵

~~~~~

|                    |      |      |
|--------------------|------|------|
| 時局感想……………          | 文学博士 | 紀平正美 |
| 責むるに急なる勿れ……………     |      | 太田秀穂 |
| 本邦救済施設史の研究……………    |      | 布川静淵 |
| 王道と憲法政治との認識不足…………… |      | 大島正徳 |
| 本会記事               |      |      |
| もつと朗かに、率直に……………    |      | 香原生  |

#### 海外思潮

国家主義と文明の将来（上）（ハロルド・ジェー・ラスキ）

### 第三百六十八輯（1933年6月1日）

|                  |      |       |
|------------------|------|-------|
| 印度への正しき関心……………   |      | 杉森孝次郎 |
| 人間の背景としての詩文…………… | 文学博士 | 常盤大定  |
| 時代と倫理学……………      |      | 近藤兵庫  |
| 教育と道德と生活と……………   |      | 小尾範治  |

~~~~~

半世紀前を回顧して……………		高島平三郎
街頭より青山へ……………	文学博士	野田義夫
警察と民衆……………		太田秀穂
有識者の反省……………		大島正徳
生きることの倫理……………	文学博士	深作安文

海外思潮

国家主義と文明の将来（下）（ハロルド・ジェー・ラスキ）/ベルグソンの道德説
——Bergson ; Les deux source de la morale et de la religion. 1932 中の
第一章 L'obligation morale の抄訳（上）（中島敏教訳）/本会記事/王堂田中喜
一氏の追悼会

第三百六十九輯（1933 年 7 月 1 日）

生命の価値認識	文学博士 三宅雄二郎
えらい人	文学博士 春山作樹
独逸に於ける猶太人問題	文学博士 桑木厳翼
ヒットラー独逸は何を教へるか	友枝高彦
本会記事	

~~~~~  
ナチスの凶暴と自滅を急ぐ民族主義

|                |       |
|----------------|-------|
| ドクトル・オヴ・フィロソフィ | 帆足理一郎 |
| 満洲問題と朝鮮の教化     | 宮田脩   |
| 未亡人とは何か        | 布川静淵  |
| 誤解につきて         | 太田秀穂  |
| 倫理的に見たる満鮮旅行談   | 三輪田元道 |

海外思潮

基督教は文明に寄与する所ある乎（上）（パートランド・ラツセル）/ベルグソン  
の道德説（下）——Bergson ; Les deux source de la morale et de la religion.  
1932 の中の第一章 L' obligation morale の抄訳（上）（中島敏教訳）

第三百七十輯（1933 年 8 月 1 日）

|                    |                      |
|--------------------|----------------------|
| ヨーロッパに於ける社会運動最近の情勢 | 経済学博士 河合栄治郎          |
| 大学の自治と自由に就いて       | ドクトル・オヴ・フィロソフィ 帆足理一郎 |
| 共產思想の転向問題          | 布川静淵                 |
| 自由主義より集団主義への動向     | 茂木惣兵衛                |
| 本会記事               |                      |

~~~~~

自由と自制	文学博士 吉田熊次
詩人に非ずば聖人君子たるを得ず	文学博士 紀平正美

「人間の背景」中の稲山と鄒魯とについて……………	文学博士 常盤大定
故沢柳総長辞職の想出……………	八田三喜
香港聞書……………	小尾範治
故蟹江義丸博士三十年追憶会……………	桑木厳翼

海外思潮

基督教は文明に寄与する所ある乎（下）（パートランド・ラツセル）

第三百七十一輯（1933年9月1日）

我民族の人口問題……………	法貴慶次郎
旧約外典に現れたる女性観及女性教育論の一考察……………	平塚益徳
大亜細亜主義の旗の下に……………	小尾範治
銀閣寺……………	香原一勢



空霓問答……………	文学博士 桑木厳翼
弱者の保護……………	太田秀穂
身辺雑感……………	高島平三郎
時事三題……………	文学博士 春山作樹
故蟹江義丸博士三十年追憶会に於ける追懷談（蟹江操・井上哲次郎・南弘・桑木 厳翼・姉崎正治・吉田賢龍・田部隆次・塚原政次・中島徳蔵・深作安文・金成 亀次郎・乗杉研寿・加藤直久）	

海外思潮

ナチスの弾圧と独逸国民性（静雄子）

第三百七十二輯（1933年10月1日）

将来の我国青年の任務……………	麻生正蔵
理論と実践、自由と強制……………	文学博士 桑木厳翼
学究の存在理由……………	文学博士 吉田熊次
好学心と向上心……………	文学博士 塚原政次

輿論と沈黙……………香原生

初秋随感……………布川静淵

何を先務とするか……………太田秀穂

海外思潮

現代人口経済学の傾向（布川静淵）/ベルグソンの宗教観（上）——道德・宗教の二根拠（中島俊教訳）/ファシズムに関する三著——（一）ファシズムの経済論的基礎（アインチヒ）、（二）イタリアの協力国家（ピティグリアニ）、（三）ファシズムの脅威（ストラキー）（ABC 生）

第三百七十三輯（1933 年 11 月 1 日）

動機の純・不純……………文学博士 三宅雄二郎

彼れ死より甦れるにあらず……………岡田哲蔵

書齋と街頭の間に立ちて……………マスタア・オブ・アアツ 千葉鉦蔵

孔子教のフランス進出……………文学博士 後藤末雄

本会記事

我が国と次期の世界教育会議……………大島正徳

自給自足の問題……………文学博士 紀平正美

無理をするな……………香原

海外思潮

露西亜革命の地理的背景（上）（エルスワルス・ハンチントン）/ベルグソンの宗教観（下）——道德・宗教の二根拠（中島俊教訳）

第三百七十四輯（1933 年 12 月 1 日）

満蒙を視察して……………高島平三郎

世界教育会議より帰って……………大島正徳

墓参	文学博士 野田義夫
阿部博士著 児童精神衛生学について	法貴慶次郎
智育欠乏と必要なる思想統制	杉森孝次郎
エエル在学時代に於ける、片山潜君の事を誌す。	
.....	マスタア・オブ・アアツ 千葉鉦蔵

海外思潮

現代ロシアに於ける読書界の傾向——最近の海外通信（掬香）/露西亞革命の地理的背景（下）（エルスワルス・ハンチントン）/ベルグソンの道德・宗教観（結語）——道德・宗教の二根拠（中島俊教訳）	
---	--

第三百七十五輯（1934年1月1日）

現代の認識とその批判

宗教革新の機運を促す	文学博士 井上哲次郎
批判と反省	文学博士 桑木厳翼
日本好きにならせる	文学博士 春山作樹
近時社会相の一面	文学博士 得能文
自由主義の主張と人生の意義	ドクトル・オヴ・フィロソフィ 帆足理一郎
現代日本の認識と思想国防	杉森孝次郎
フォン・ビュウロウの『帝政ドイツ』を読む	法貴慶次郎
国際平和への再出発	近藤兵庫
現代の特徴と其の推移	布川静淵
吾が国難	文学博士 遠藤隆吉
現代生活の批判と反省	文学博士 深作安文
日本精神の検討	文学博士 野田義夫
難局打開と日本精神	高島平三郎
現代の世相と日本精神	小豆沢英男
時局当面の認識批判	隈本有尚
隠れたる輿論	太田秀穂
国民の道德程度	文学博士 三宅雄二郎

大学教育と自由……………	文学博士	吉田熊次
昭和八年より残された国家的諸問題……………		友枝高彦
現代人に必要なること……………	文学博士	下田次郎
新文化の点睛……………	文学博士	常盤大定
人才の産地……………		三輪田元道
所謂非常時局の心理……………		大島正徳
ファッション治下のイタリア……………		小尾範治
外遊所感の二三……………	文学博士	桑田芳蔵
新渡戸博士を憶ふ……………	文学博士	速水滉
功を譲る……………		香原一勢

海外思潮

独逸文学と革命/ベルグソンの哲学と道徳・宗教——道徳・宗教の二根拠（中島俊教）/本会記事

第三百七十六輯（1934年2月1日）

我文化の一特相としての俳句……………	文学博士	得能文
王道国家と更生日本……………	ドクトル・オヴ・フィロソフィ	帆足理一郎
ナチスの教育政策とその批判とに就いて……………	文学博士	入沢宗寿
ナチス化途上のドイツ……………		小尾範治
帝政ドイツのポーランド対策に見よ……………		法貴慶次郎

~~~~~

|                |      |      |
|----------------|------|------|
| 最近世相所感……………    | 文学博士 | 塚原政次 |
| 閑人何を為すべきか…………… |      | 太田秀穂 |
| 国体と思想対策……………   |      | 大島正徳 |
| 本会記事           |      |      |

海外思潮

議会政治と政党政治の問題（布川静淵）

第三百七十七輯（1934 年 3 月 1 日）

|                |            |
|----------------|------------|
| 日本の王道と支那の王道    | 文学博士 井上哲次郎 |
| 法に於ける道德、技術及び科学 | 法学博士 田中耕太郎 |
| 外から観た日本        | 小尾範治       |
| アリアドニの伝説と詩     | 岡田哲蔵       |
| 政党是非           | 近藤兵庫       |
| 意見の相違          | 香原一勢       |

---

|                             |       |
|-----------------------------|-------|
| 教化一夕話                       | 高島平三郎 |
| 豊岡を中心としての追憶——「人才の産地」についての訂正 | 三輪田元道 |
| 時感二題                        | 大島正徳  |

海外思潮

東西赤化の異同（上）（布川静淵）

第三百七十八輯（1934 年 4 月 1 日）

|                                     |           |
|-------------------------------------|-----------|
| 師範大学案に関して                           | 文学博士 春山作樹 |
| 師範教育改善について                          | 太田秀穂      |
| 婦人問題の展望                             | 文学博士 野田義夫 |
| 西洋文明の特質について                         | 長尾行介      |
| 日本倫理上より見たる建武中興                      | 文学博士 深作安文 |
| ジョルヂ・クロードの転向を中心として——現代仏蘭西に於ける王政復古運動 | 柳沢健       |

---

|            |            |
|------------|------------|
| 教育法規を法律化せよ | 法貴慶次郎      |
| 学生よ何処へ行く   | 布川静淵       |
| 教育界の非常時    | 大島正徳       |
| 『聖諭記』を読みて  | 文学博士 小柳司気太 |

海外思潮

東西赤化の異同（中）（布川静淵）

第三百七十九輯（1934 年 5 月 1 日）

|                       |            |
|-----------------------|------------|
| 我が精神界の偉傑弘法大師に就いて…………… | 文学博士 井上哲次郎 |
| 嵐の世界に立ちて……………         | 小尾範治       |
| 正義の恢復より人格の完成へ……………    | 文学博士 吉田静致  |
| 自然法爾……………             | 文学博士 得能文   |
| 競争原理と社会……………          | 三輪田元道      |

|                         |           |
|-------------------------|-----------|
| 卒業式の変遷に因みて……………         | 文学博士 桑木厳翼 |
| 法規適用と道德心……………           | 大島正徳      |
| 池岡氏の『国体観念の新研究』に就いて…………… | 法貴慶次郎     |
| 先後軽重……………               | 太田秀穂      |

海外思潮

東西赤化の異同（下）（布川静淵）/本会記事

第三百八十輯（1934 年 6 月 1 日）

|                           |           |
|---------------------------|-----------|
| 犯罪人の心理を中心として……………         | 高島平三郎     |
| 部分と全体……………                | 文学博士 桑田芳蔵 |
| 春山博士の「師範大学案に関して」中の弁妄…………… | 長谷川乙彦     |
| 民族主義の倫理……………              | 文学博士 吉田熊次 |
| 日本特有のものを……………             | 香原生       |

|                                 |           |
|---------------------------------|-----------|
| 思想対策の対象……………                    | 近藤兵庫      |
| 安部能成氏著『ギリシャとスカンディナヴィア』を読みて…………… | 文学博士 桑木厳翼 |
| かういふ場合の宗教……………                  | 布川静淵      |
| 独占主義……………                       | 文学博士 塚原政次 |
| 疑獄事件と自己浄化……………                  | 大島正徳      |
| 本会記事                            |           |

海外思潮

外交工作と倫理（布川静淵）

第三百八十一輯（1934年7月1日）

- 二十世紀の貪瞋痴……………文学博士 三宅雄二郎  
学校に於ける宗教教育について……………近藤兵庫  
非常時と倫理学……………杉森孝次郎  
更に長谷川校長の明答を請ふ……………文学博士 春山作樹  
農村更生の原動力——中堅青年の養成に就て……………小尾範治  
働かんとする意志……………香原生

~~~~~  
独逸亡命客著書数種——アインシュタインの『世界形像』その他

- ……………文学博士 桑木巖翼
スペングラの『決定の年』を読みて……………布川静淵
国葬について……………文学博士 遠藤隆吉
現代の教育を疑ふ……………太田秀穂
学生の反戦運動について……………ドクトル・オブ・フィロソフィ 帆足理一郎
文政の改善……………大島正徳
道の人東郷元帥……………文学博士 深作安文
教育的懷疑論……………香原一勢
本会記事

海外思潮

議会か独裁か（布川静淵）/世界各国の教育経済

第三百八十二輯（1934年8月1日）

- 軍備縮小の倫理性……………ドクトル・オブ・フィロソフィ 帆足理一郎
教育家としての川合清丸……………文学博士 入沢宗寿
岡田内閣に望む……………高島平三郎

政界の心理・倫理	大島正徳
新内閣と綱紀肅正問題	太田秀穂
報恩	香原生

創造的政治の必要	杉森孝次郎
歴史を中断するもの	文学博士 紀平正美
生きた事実と道徳問題	三輪田元道

海外思潮

新生活の待望（布川静淵）/ 本会記事

第三百八十三輯（1934 年 9 月 1 日）

思想上より見たる東郷元帥	文学博士 井上哲次郎
釈教和歌と国民性	文学博士 常盤大定
教育の革新	小尾範治
学制改革問題に関して	文学博士 春山作樹
政治的腐敗と不穩思想	文学博士 深作安文

「自然法爾」補遺	文学博士 得能文
道徳の力	近藤兵庫
思想問題の現状と其対策に就て	文学博士 塚原政次
師範教育の問題に関し春山博士に答ふ	長谷川乙彦
個性の發揮と教育	文学博士 下田次郎
書斎独語	文学博士 野田義夫
特殊存在の理由？	文学博士 桑木厳翼
政局寸言	布川静淵
政友会の教育改革案について	大島正徳

海外思潮

最近の英国を語る（上）